

**平成25年度第1回  
生涯学習教育研究センター運営委員会議事要旨**

○日時：平成25年4月9日（火） 14：30～16：00

○場所：地域国際学習センター3階 304教室（学習相談室）

○議題：【審議事項】

1. 生涯学習教育研究センター教員選考内規及び生涯学習教育研究センター教員選考内規に関する申し合わせの改正について（資料1）
2. 生涯学習教育研究センター教員選考委員会の設置について（資料2）
3. 生涯学習教育研究センター研究紀要編集委員会の設置について（資料3）
4. その他

【報告事項】

1. 生涯学習教育研究センターの概要について（資料4）
2. その他

○出席者（10名）：真栄城勉（生涯学習教育研究センター長）、背戸博史（生涯学習教育研究センター教授）、本村真（法文学部准教授）、大島順子（観光産業科学部准教授）、里井洋一（教育学部教授）、安里英治（理学部教授）、遠藤由美子（医学部准教授）、長山格（工学部准教授）、立田晴記（農学部准教授）、西本裕輝（大学教育センター准教授）

○陪席者：玉城優里（地域連携推進係 係員）

◆報告事項1 生涯学習教育研究センターの概要について

生涯学習教育研究センターの概要及び平成24年度事業報告、平成25年度事業計画について、背戸教授より資料4に基づき説明があり、了承された。

また、運営委員の主な業務についても説明があり、各部局の情報提供や情報発信に加え、当センターの管理運営等について、委員の先生方の専門分野の知見を生かした助言や意見等を頂きたいとの協力依頼があった。

◆審議事項1 生涯学習教育研究センター教員選考内規及び生涯学習教育研究センター教員選考内規に関する申し合わせの改正について

生涯学習教育研究センター教員選考内規及び生涯学習教育研究センター教員選考内規に関する申し合わせの改正について、真栄城委員長より資料1に基づき次のとおり説明があり、了承された。

今回、各部局からの委員の選出において教授が4名しかおらず、現行の内規では教員選考委員会を立ち上げることができないため、委員の構成の部分について内規の改正を行いたい。また、内規に関する申し合わせについても実態に合わせて内容の修正を行いたいと考えている。詳細については教員選考委員会で審議することとなるが、運営委員会の議を経ることが必要となるため、教員選考委員会において申し合わせの内容の修正を行うことについて予め了承を頂きたい。

◆審議事項2 生涯学習教育研究センター教員選考委員会の設置について

生涯学習教育研究センター教員選考委員会の設置について、真栄城委員長より資料2に基づき次のとおり説明があった。

現在、当センターの准教授のポストが欠員となっており、公募を行っているところである。4月12日には公募の締切としているため、早速、教員選考委員会を立ち上げ、7月1日以降の採用に向け、書類選考・面接等を含めた選考の準備を進めたい。

審議の結果、真栄城委員長、背戸委員、安里委員、大島委員、西本委員の5名を委員とし、教員選考委員会を設置することで了承された。

◆審議事項3 生涯学習教育研究センター研究紀要編集委員会の設置について

生涯学習教育研究センター研究紀要編集委員会の設置について、真栄城委員長より資料3に基づき次のとおり説明があった。

現在、5月の発行に向けて研究紀要第7号の編集作業を行っているところである。今後の作業がスムーズに進むよう、昨年度までの委員に引き続きお願いしたい。

このことについて、以下の意見があった。

- ・編集委員になり、査読担当となった場合には、本紀要に投稿できないことになるのか。(里井)  
→現状は、編集委員で査読を担当する場合でも本紀要への投稿は可としている。編集委員会においては、執筆者を伏せた状態で論文の査読責任者を決めて学内外に査読の依頼を行っており、匿名性を保って審査をしている。(背戸)

審議の結果、背戸委員、西本委員、大島委員に加え、7月以降に採用となる新任教員の4名を委員とし、研究紀要編集委員会を設置することで了承された。

その他、センターの事業や運営等について、以下のような質問、意見等があった。

- ・公開授業募集案内の冊子はどのようなところに配布しているのか。大学の公開講座の詳しい情報はどこで聞いたら良いかと尋ねられることがあるが、大学からの広報・案内が上手くいっていないのではないか。(長山)  
→公開授業の冊子は、年間3000部発行しており、県内の教育関係機関を中心に、役所、公民館、図書館、学校等に配布している。(玉城)  
→冊子の他、個別にチラシを作成したり、センターのホームページにも講座等の情報を掲載しているが、学内外に対する広報については以前からの課題である。今後も委員の先生方からもご意見を頂きながら、情報の発進力を高めるシステム作りについて継続して検討・工夫していきたい。(背戸)
- ・公開講座等の受講料収入を、大学の収入とするのではなく、センターの運営経費に充てることはできないか。実績の分だけ経費が配分されれば、講座を担当する教員のモチベーションも変わってくるのではないか。(大島)  
→かかる経費よりも受講料の方が多いい講座もいくつかあるが、無料で行う講座も多いため、講座

全体としては収入よりも支出が多い状況である。もし一貫して収支で判断してしまうとなると、開催できない講座が出てくる可能性もあるため、そのような仕組みは難しい。(背戸)

- 新学長が表明したサテライト設置の件については、当センターとも大きく関わってくる業務だが、今のままでは調整する機会もなく、学内での連携も全く取れていない状況である。今後は、関係部局を交えて意見交換を行う必要があるのではないか。また、単に教育関係や社会教育関係だけにとどまらず、医療関係も含めて総合的に検討しなければならない。(里井)
- 本学の様々な部局において、離島で複数のプロジェクトを実施しているが、受け入れ側からすると、「琉球大学」という一括りで見ているため、混乱が起きてしまっている。サテライトの設置が議論されるこの機会に、全体を統括するような離島との窓口を設置する等、大学として一本化して離島と関わるような仕組みを検討しなければならないのではないか。当センターでなくとも、どこかが中心となってシステム作りを支援しなければ、今後も同様な混乱を招くことになると思われる。(西本)

以上